令和６(2024)年度ファシリテーションパワーアップ講座②実施報告

実施日：令和７(2025)年１月20日

◎　当研修では、地域課題を地域の人々自ら主体的に解決できるよう、地域活動を志す方々の地域課題解決に向けた活動等につなげる学習プログラムを企画・進行する知識・技術の習得を図ります。第２回は、４名の方が御参加くださいました。

○　演習「様々な対話の方法を知ろう」

講師：日本ファシリテーション協会　フェロー　徳田　太郎　氏

最初に、ファシリテーションの基本を確認しようということで、学びのファシリテーションの３つの基本アクション、「伝える」「問う」「聴く」についての話がありました。伝えるでは、全体のOARR（Outcome・Agenda・Role・Rule）を示すことによりその場の方向づけをすること、個々のアクティビティの「なに」「なぜ」「どう」を伝えることでスムーズにファシリテーションを行うことができるという話がありました。この場はどういう場なのか、何をする場なのかということを明確に示す必要性を示されました。

次に、ブレインストーミング、グルーピング、ランキング等の実施方法や、ファシリテーターとして支援する際のポイントについて説明がありました。演習では、「対話を通じた学びの場を企画・運営・進行する上で大切にしたいことは？」というテーマでブレインストーミングとグルーピングを行いました。グルーピングでは、「無理にまとめようとせずに意味が似たものを集めるようにしてほしい。」「きれいに分けることよりも、対話しながら付箋に書かれていることの意味についての気付きがあることの方が重要。」というアドバイスがありました。アドバイスを受けて、付箋の内容について話し合いながら、グルーピングし学びを深める参加者の姿が見られました。

○　演習「対話の場をデザインしよう」

第３回の研修で実践する「対話を通じた学びの場」を企画・運営・進行するための準備として、プログラム・デザインシートの説明が最初にありました。受講者は、企画者のねらい、参加者のアウトカム、プログラムについての具体的な説明を聞いた後、シートの作成に取りかかっていました。ボランティアの参加者を増やすためのワークショップや、終活の必要性を伝えるためのワークショップなど、各自が考えたプログラムの共有が最後にありました。徳田氏からは、「アウトプットとしてのゴールだけでなく、参加者のアウトカムとしてのゴールも考えてほしい。」「失敗を恐れずに場数をふむことが大切です。」との言葉がありました。ねらいの達成に向けて、対話の場をどのようにデザインしていけばよいのか、改めて考える時間となりました。

★　受講者の声　★

- 教えていただいた様々な対話の方法が目からうろこでした。とても勉強になりました。
- これまでテンプレート的にプログラムを実施してきましたが、参加者に「より深く考えてもらう」ことが一番充実感、満足感になるのだと実感しました。
- 親学習プログラムや様々な講座の折に、今回学んだことを取り入れていきたいです。
- 次のファシリテーションの機会には、よく参加者の様子を見て進めていきたいです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206　　e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp